



JSQC ニュース

No.254

発行 社団法人 日本品質管理学会

東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内

電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507

ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

1-トピックス 国際交流はささやき通訳を我慢することから始まる!

2-私の提言 JSQCに育てられて

2-ルポルタージュ 第89回講演会ルポ(中部)

3-第297回見学会ルポ(本部)/研究会だより

4-7月の入会者紹介/行事案内/研究員募集

国際交流はささやき通訳を我慢することから始まる! ~ANQを通してのマイクロレベルでの国際交流~

ANQ会長 狩野 紀昭

2002年11月のANQ創設後に、シンガポール、ドバイが加盟し、目下、パキスタンとバングラデッシュから出されている申請が承認されれば、14カ国の組織となる。まずまずのスタートと喜んでいる。8月中旬にインドのニューデリーで開催されるSecond ANQ Congress/18AQS (アジア品質シンポジウム) には、全ての加盟組織から発表がなされるとの由。JSQCからは、発表件数24件、参加者も約40名に及び、開催国インドに次ぐとのこと。ANQ議長国として面目を施すことが出来そうである。JSQC会員の皆様のご協力に感謝の意を表したい。

ANQ創設のねらいの中で一番大事なことは、アジアの品質管理専門家の相互交流によるクオリティの発展にある。アジアは、世界中の人々が日常使う製品の大半を生産している「世界の工場」にも関わらず、品質の仲間で連絡を取るためのこれまでの手取り早い方法は、アメリカやヨーロッパの品質関連の国際大会に出席することであった。

ANQにおける人的交流のもっとも重要な場は、毎年開かれるAQSにある。これが、マス交流プログラムとすれば、個人をベースとしたマイクロ交流プログラムが必要となる。この推進について、昨年の北京で提案され、今年の春の台北での理事会で確認された。ANQの加盟組織の会員であれば、各組織が主催する年次大会等に、その組織の会員と同じ条件で参加し、英語での発表が出

来るようになった。また、これらの大会の開催日、場所等についての情報提供は、韓国、インドの協力で急速に進められているANQのHPを見てもらえれば、分かるようになる。

JSQC会員がANQ加盟組織での発表会に出かけていき、逆に、JSQCの年次大会、研究発表会、あるいは、支部の研究発表会に他の加盟組織から発表にやってくることになる。JSQCの若い会員に勧めたいコースは、まず、JSQCの研究発表会・大会で日本語発表し、その後に、ANQ加盟国の大会で英語発表する。このようにして、毎年2回ずつ日本語と英語で発表すれば、相当に研究の進展が図られるとともに、国際的な場でのコミュニケーション能力が向上する。

今日グローバル化時代を迎え、英語によるコミュニケーション能力の向上が極めて重要になってきている。この能力の向上のためにもっとも有効なことは、場数を踏むことである。このマイクロ交流プログラムが、この面で飛躍的に役立つことを祈っている。

この交流計画は、決してバラ色ばかりではない。JSQCの発表会に日本語を理解しない参加者がやってくるので、誰かが、会場でささやき通訳 (whispering) をすることになり、他の参加者にとっては耳障りとなり、クレームが出てくる可能性がある。もちろんこの問題は、ブース付き会場で同時通訳を導入することが出来れば、解決できるが、そのためには、相当な費用が必要になる。行動指針ANQ Wayに、“質素 (austerity)”

というキーワードがある。質素な方法で実質を深めるのがアジアのやり方である。ただ、このやり方では、ささやき通訳が発する雑音を許容していくことが必要となる。ご理解とご協力を願いたい。

蛇足ながら、JSQCを含めて財政的に乏しいアジアで大会参加費が20万円を超えるEOQ、10万円近いASQに対して、AQSの参加費は、1万5千円前後でやっというとしていこうとしている。運営がなんとかこれまでやってこられたのは、JSQCの30周年記念事業からの拠金をはじめとして、日本、台湾、韓国、インド、アメリカの企業からの寄付があったからである。日本企業で、これまでにご協力頂いたのは、昨年の中国での積水化学工業、イーピーエス、今年度はインドに關係の深いトヨタ自動車、デンソー、ブリヂストン、サンデンの各賛助会員会社である。この場をお借りして感謝を表したい。

上述のようなマイクロレベルでの交流の実現のためには、ささやき通訳に対する会員の協力に加えて、渡航費の問題がある。この点について、台北での理事会で、AQSの大会に対する寄付金に余剰が生じた場合には、その余剰金をサポート費用とすることが出来ることになったことは、誠に喜ばしいことである。

上記のようなANQを通しての活動が、アジアの若い人たちの交流に役立ち、その輪が年々広がっていくことを期待している。

以上

● 私 の 提 言 ●

JSQCに育てられて

筑波大学大学院ビジネス科学研究科
経営システム科学専攻・専攻長

椿 広計



奥野忠一先生の
勧めによって品質
管理学会に入会し
たのは25年前であ
る。修士1年の春
の研究発表会で、
縮小推定について

発表したのが学会デビューである。直後に、鷲尾泰俊先生の主催する統計手法研究会が、「縮小推定」をテーマで発足と聴いて、修士1年の身分だがどうしても出たくて、奥野先生を通じて参加させて頂き、篠崎信雄先生、丹後俊郎先生を始めとして多くの先生方にご指導頂き、修士論文を書き上げた。

修士を卒業して計測通論講座の助手に採用して頂くと同時に、品質誌編集委員に指名され、赤尾洋二先生、久米

均先生を始めとして、何人かの先生の下で特集などを企画した。尾島善一先生や宮川雅巳先生とテープ起こしをした、田口玄一先生、竹内啓先生、久米均先生、広津千尋先生、矢野宏先生の6時間に及ぶ討論は、痛烈に印象に残っている。その後、統計手法研究会も、飯塚悦功先生に引き継がれ、若手研究者の愉快的討論の場の一つとなった。これらは、全て小生の大学卒業後からせいぜい28歳くらいまでに体験できたことである。

また、日本科学技術連盟の箱根のQCSに書記として参加させて頂いたのも、20台前半であり、ここでも鈴木和幸先生、高橋武則先生、安藤之裕先生と夜中に話していると、狩野紀昭先生がそれに参加してくださっ

たことが印象的であった。当時の小生のQCの知識といえば、「直行率」を黑板に「直交率」と書いて、何らためらいもないレベルのものだったのである。日本規格協会で石川馨先生が委員長をされていた国際標準化機構TC69（統計的方法の適用）の国内委員会活動に参画し、石川先生から「管理図をよく勉強しなさい」と指導されたのも修士の頃であった。

このように、小生の20台に、JSQCとその周辺の先生方は、テクニカルなことや実務的なことに関して多くの機会と責任を与えてくれた。歴代事務局の方々からも多くのなるほどと思う助言を頂戴した。JSQCは兼子毅先生が創設された若手の合宿など現在も学生会員に対するサービスは天下一品であることは承知している。それでも、学会傘下の研究会や委員会に20台の方を、責任ある立場で、少なくとも20%は参画させ、JSQCに育てられたと感じる若手を増やさなければならぬ。

第89回中部
講演会ルポ

お客様に支持され続ける
企業を目指して

“日本経営品質企業から学ぶ
経営革新とリーダーシップ”

第89回（中部支部第42回）講演会が2004年4月16日（金）、愛知県刈谷市の（株）デンソーD-Squareにおいて開催された。標記のテーマにより115名の参加を得て、大西支部長の開会挨拶に続き下記の講演が行われた。

【講演1】「パイオニア発、世界初への挑戦」による
お客様満足の追求

パイオニア（株）モバイルエンタテインメントカンパニー
常務取締役 プレジデント 須藤 民彦氏

オーディオ・ビデオ製品、カーエレクトロニクス製品で知られる同社は、標記をカンパニービジョンとしてお客様満足の追求を行っている。経営層と全社員による自由闊達な組織風土を醸成していること。グローバル3現主義の徹底を行動指針とし全部門でお客様第一主義を実践していること。これを基に価値創造を育む企業として数々の世界初のエンタテインメント製品を

世に送り出し、カーナビゲーションの世界初実用化を実現した。製品トラブルと対応を機として経営改革プロジェクトを発足し見事に経営改革ができたことの講演をして頂いた。

【講演2】当社の経営品質向上活動について

カルソニックハリソン（株）取締役社長 雪竹 泰三氏
自動車エアコン用コンプレッサー製造の同社は、経営ビジョンに顧客本位・社員重視・社会との調和・独自能力を挙げ、中でも直接の取引先、メーカー、一般ユーザーに至るまでの徹底した満足度調査を行い、その向上を経営上の大きな目標としている。氏ご自身のJQAとの出会いからJQAの信奉とリーダーシップによる顧客満足度経営の組織づくりを経て、JQA受審受賞へ至るまで興味深くわかり易く講演して頂いた。これから受審しようとする経営者へのアドバイスをも含めJQAの素晴らしさを具体的に知らしめていただいた講演であった。

講演後多数の質疑に対し各氏の本音を交えた丁寧な応答を頂いた。最後の盛大な謝意拍手で参加者の十分な満足感が伝わってきた。

鳥内 道夫（株）竹中工務店

第297回本部 事業所見学会 ルポ

JR東日本(株) 研究開発センター

第297回 事業所見学会（本部）は5月26日(水) 埼玉県さいたま市のJR東日本(株)研究開発センターで実施された。当日は五月晴れの汗ばむような陽気の中、25名が参加して行われた。13時に埼京線日進駅に集合して、研究開発センター安全研究所主任研究員（安全心理グループリーダー）楠神健様、総務課企画グループ田中康裕副課長様他にご案内戴き、きめ細かな配慮のもと、見学会を実施することが出来た。

JR東日本(株)は2002年6月の完全民営化を契機に「ニューフロンティア21」構想のもと、グループビジョンの柱の一つとして「顧客価値の創造・顧客満足の追求」を掲げ、顧客志向の事業を展開し、いつでも何処でも「安全な鉄道」を目指して積極的な事業展開を推進して

いる。2002年1月には高齢化、少子化や情報技術の急速な進展に迅速かつ的確に対処するため、3箇所に分散していた研究開発組織を集中強化した「研究開発センター」を開設したという。

センターでは、安全性・正確性を向上させるとともに、多様化するお客様のニーズに対応した新しいサービスを低コストで提供する新たな鉄道システムe@trainの実現をめざして研究開発を進めている。

見学会は、研究開発センター概要のビデオで説明、所内見学、研修会場でのレクチャーと緻密な計画のもとに実施された。説明ではe@trainの主要な研究開発テーマである「安全のレベルアップ達成」に向けた「安全研究所」の活動を中心に、重大事故やヒューマンエラー事故の防止に向けた現状説明を受けた。特に「事故予測型乗務員訓練シュミレーター」は実際の事故を想定したシステムであり、見学を通じ参加者一同、強い企業理念とリーダーシップのもと、JR東日本の事故撲滅に向けた真摯な取り組みに接する事が出来た。

池田 晃三（株）竹中工務店

研究会 だより

デジタルエンジニアリングと品質保証研究会

ISO 9004ベースの品質保証の検討

研究会では様々な業界の商品におけるフィールド問題を調査し、その結果主要な品質保証課題には、①自動車・携帯電話に代表される顧客が多様で移動環境下で使用する商品の品質保証、②開発期間短縮化に対応した品質保証、③システムの拡大に伴い実使用環境以外に対象がない場合の品質保証、④携帯電話に代表される大規模で複雑な複合技術開発の品質保証があることが判明しました。従来の単純開発型品質保証体系や単純高品質保証型品質システムでは限界があり改善改革が必要であることを明らかにしてきました。

実際のフィールド品質の分析から判明した【妥当性確認もれ】問題には図1の要因があることを明らかにし、実際の未解決障害の分析にこの要因図を用いて有効性を確認しました。妥当性確認関係におけるデジタルエンジニアリング対象も図1に示しました。

経営、企画、設計、製造の品質保証問題に対してはISO 9004の概念に対応するプロセスネットワーク分析技術を開発しました。プロセスの妥当性確認に有効であることも示しました（学会未発表）。以上が第一年度の研究の状況です。

第二年度の研究課題はQC工程表に替わるプロセスネッ

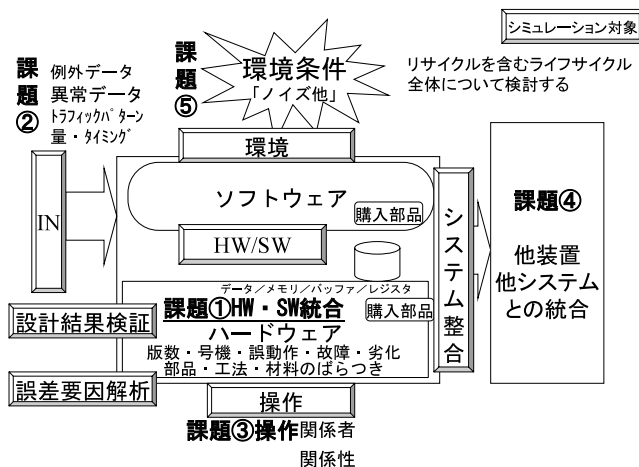


図1 妥当性確認の対象

トワークに対応したISO 9004ベースの工程別品質保証の検討【プロセスの妥当性についての技術的検討】です。その観点からデジタルエンジニアリングの対象を検討する予定です。研究員が電気電子情報系に偏っているので課題が多い機械工学分野の会員の参加を期待します。

金子 龍三（日本電気通信システム(株)）

2004年7月の 入会者紹介

2004年7月6日の理事会において、下記の通り正会員21名、準会員15名の入会が承認されました。

.....
(正会員21名) ○高森 淳一(あじかん) ○佐々木 弥生(国立保健医療科学院) ○渡部 裕子(綜研化学) ○池谷 俊郎(前橋赤十字病院) ○林 遊記(T I S) ○芳賀 麻誉美(女子栄養大学) ○橋本 紀子(関西大学) ○

小形 嘉美(T E E D A) ○高橋 勝彦(広島大学) ○進士 君枝(立川中央病院) ○津田 孝(ヤマト工業) ○貞本 徹(日野自動車) ○神野 友香子(ジンノ技術士事務所) ○瀬沼 有希子(味泉) ○野尻 節雄(前田建設工業) ○増田 彰・桑井 正博(リコー) ○小川 人士(玉川大学) ○岡本 裕(日本規格協会) ○大隅 正憲(日本品質保証機構) ○山岡 靖幸(神崎高級工機製作所)

.....
(準会員15名) ○竹間 理絵・小島 恵介・丸山 裕之・神田橋 慧一(武蔵工業大学)

○隄 雄亮・久米 英孝・守田 義昭(東京理科大学) ○内田 健一・岸村 俊哉・木村 義弘・松本 健・上野山 勝也・石川 啓(東京大学) ○小坂 太紀恵(山梨大学) ○神崎 哲(中央大学)

.....
正 会 員：3089名
準 会 員：127名
賛助会員：177社203口
公共会員：22口

行 事 案 内

●第75回研究発表会(中部)

テーマ：「あたり前の品質を確保する品質管理の研究と実践」

日 時：2004年9月3日(金)

10：15～19：00

会 場：名古屋工業大学

プログラム：10：15～17：15 研究発表会

研究発表事例16件

17：30～19：00 懇親会

定 員：100名(会員優先)

参加費：会 員4,000円・非 会 員6,500円

準会員2,000円・一般学生3,000円

懇親会4,000円

申込方法：同封の参加申込書にご記入の上、中部事務局までお申し込みください。

申込締切：2004年8月20日(金)

●第98回シンポジウム(関西)

テーマ：「ビジネスプロセス革新の最前線～新しいものづくりへの革新をめざして～」

日 時：2004年9月15日(水)

13：00～17：30

会 場：大阪・天満研修センター

プログラム：

講演：「各社における新しいものづくりへの取り組み」

事例講演1：伊藤要蔵氏(アイシン精機株)

事例講演2：綾 真和氏

(元・松下電器産業株)

事例講演3：入倉則夫氏(株デンソー)

総合質疑：

リーダー：猪原正守氏(大阪電気通信大学)

メンバー：事例講演者

参加費：会員1,000円・非会員2,000円

申込方法：会員No.・氏名・勤務先・所属・TEL・連絡先・住所を明記の上、関西支部事務局までお申し込みください。

●第43回クオリティパブ(本部)

元気印の中堅企業を囲んで〈シリーズその2〉

テーマ：やる気集団で2ケタ成長する企業の人材育成の秘密

ゲスト：阿部 忠氏(ホッカイエムアイシー株) 代表取締役社長)

日 時：2004年9月29日(木)

18：00～20：30

会 場：日本科学技術連盟

東高円寺ビル5階ラウンジ

参加費：会員3,000円・非会員4,000円

準会員・学生一般2,000円

(含軽食・当日払い)

詳 細：ホームページをご覧ください。

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

定 員：30名

●第92回講演会(本部)

テーマ：中国の最新事情

日 時：2004年10月12日(火)

13：30～16：50

会 場：日本科学技術連盟

東高円寺ビル2階講堂

講演1：「中国の品質管理の実態(品質管理と小集団活動)」

市川享司氏(パワーアップ研究所)

講演2：「中国の最新事情(仮題)」

関 満博氏(一橋大学)

定 員：150名

参加費：会 員4,000円(締切後4,500円)

非会員6,000円(締切後6,500円)

準会員2,000円・一般学生3,000円

申込締切：2004年10月5日(火)

申込方法：ホームページから申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

●第34回年次大会・電気通信大学(東京)

日 時：2004年10月30日(土)

9：30～19：30

プログラム：

9：30～10：15 通常総会

10：20～11：00 各賞授与式

11：15～12：00 会長講演

飯塚悦功氏(東京大学)

13：00～17：30 研究発表会

17：45～19：30 懇親会

参加費：

研究発表会

会 員4,000円(締切後4,500円)

非会員6,000円(締切後6,500円)

準会員2,000円・一般学生3,000円

懇親会

会 員・非会員 4,000円

準会員・一般学生2,000円

申込締切：2004年10月20日(火)

申込方法：ホームページから申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

行 事 申 込 先

本 部：TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail：apply@jsqc.org

事務局携帯：090-9128-7979

中部支部：TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806

E-mail：nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail：kansai@jsqc.org

研究員募集

群馬県職員(研究員)募集

◆産業技術センター研究員(エレクトロニクス) 1名

詳細URL：<http://www.pref.gunma.jp/g/01/senkou/16fy-senkou.htm>

◆任期付研究員 メカトロ技術研究員(3年間) 1名

詳細URL：<http://www.pref.gunma.jp/g/01/ninnki/16fy-ninnki.htm>